町家ペンキ塗り替えボランティア活動　1995年　in HAKODATE

before

after

■ 1995年8月26日（土）、27日（日）■

←左

（5）長谷川理容院：1909(明治42)年、大町9-6

【塗り替えの配色】外壁下見板：鶯脂色、窓枠・柱等：白色の2色

→右

（6）三浦理美容院車庫：1907(明治40)年、大町9-3

【塗り替えの配色】外壁下見板：白色、窓枠・柱等：鶯脂色の2色

●塗り替え対象物件の選定理由：3棟以上連なる建物群のペンキ塗り替えは、1棟だけの場合とくらべて、誰の目にもあきらかに景観が良くなったと感じられるものであることが研究的に確かめられている。これを「三軒効果町並改善」という。前年からの活動の飛躍をはかり、この三軒効果町並改善をめざして、大町9番という同じ街区に立地する3棟を選んだ。ちなみに、1971年に『都市の景観 The Concise TOWNSCAPE』を著したゴードン・カレンは、「平ダースの建物が集まると、そこに建築をしのぐ芸術が芽ばえる」と述べている。

●塗り替える色の方針：①西部地区の町並み景観との調和、建物の周囲の環境や建物自体の建築様式との調和、②外壁と窓枠・柱等を異なる色で塗り分け、建物にメリハリをつけること、を考慮した。港湾通りに面するPEACEFUL PLACE+旧三洋無線電機商会については、港湾街区によく見かける淡い緑色を外壁に用い、柱等は緑色系の濃い色を用いてコントラストを強調した。市電通り沿いの長谷川理容院については、元気の出る色で、かつ今までにない新しい色を、ということで外壁に鶯脂色を用い、窓枠・柱等は白色としてメリハリをつけた。また、同じ並びの三浦理美容院車庫については、長谷川理容院の配色を反転させ、外壁を白色、窓枠・柱等を鶯脂色とし、長谷川理容院との関係を強調した。

【参加者】ペンキ塗り替え支援・札幌勝手連代表・前田芳伸、片岡みなこ、加藤清子、清水孝史、山本　准（以上、北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・大学院修士課程1年）、飯箭俊一、石橋　徹、今井　宏、船橋拓海（以上、北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・大学院修士課程2年）、荒木真也、小林晴樹（以上、北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・学生4年）、森下　崚（北海道大学大学院工学研究科住環境計画学分野・助手）、岩崎つぐみ、佐々木学（以上、函館工業高校建築科・2年）、吉村真子、佐々木こづえ、新山智子（以上、函館工業高校インテリア科・2年）、大沼亜希子（東北芸術工科大学・2年）、村岡武司、山本真也（以上元町倶楽部）、大田誠一（MGM代表）、河内昌子（街づくり函館市民会議）、関　有崎（函館からトラスト事務局）以上23名

【協力者】塗り替え建物の所有者・居住者、函館工業高校建築科教諭・吉村富士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、小坂総業㈱（足場の手配）、北海道ニッペ販売㈱・米沢猛夫（ペンキ塗料の手配）、関有崎＋河内昌子（足場の交渉、女子学生の宿泊受け入れ、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、太田誠一（対象建物所有者の承諾、所有者との色の相談・決定、男子学生の宿泊場所の提供）、柳田石塚建築計画事務所（CGシミュレーション作業の協力ハード・ソフトおよびプリンターの利用）

※以上敬称略

before

after